今も瀬戸内にそびえ立つ鈴木商店の煙突

鈴木商店は第一次大戦中、砲弾の受注をきっかけに非鉄金属事業を一気に拡大する。銅、亜鉛の製錬のため巨大な煙突が建てられた。実は瀬戸内に今でも鈴木商店時代の巨大な煙突が2本、悠々とそびえ立ち、建設以来、瀬戸内を通る船の目印にもなっていた。

■ 太郎煙突の愛称で現存～岡山県

その一つが岡山県日比にある日本金属日比製錬所であった。明治36（1903）年に鈴木商店が買収し、銅の製錬のために、大正5（1916）年に日本金属と改称し、一気に事業を拡大した。現在は、三井金属鉱業グループの「日比製煉」として操業している。

鈴木商店当時に建てられた社屋はすでに取り壊されているが、太郎煙突の愛称で親しまれたこの巨大な煙突は、使用こそされてはいないが、現存している。

大正時代中期の日本金属日比製錬所

太郎煙突の愛称で親しまれた昭和30年頃の製錬所大煙突

現在の煙突（今は使用されていない）